

令和8年度受検者のための「阪根塾」

教採勉強会⑧ ラスト

今後の予定

7月7日(月)、14日(月)13時からの2回は、
模擬授業を確認します。今回はどの校種、教科
に対応できるように、『各自が設定した学習』を
扱います。過去問等(数部)を持参ください。**交**
流室に集合

例：小学校算数……

民間も教員も同じ

＝ 評価ポイントを攻略する4つのコツ ＝

企業が評価する 3つのポイント

一緒に働きたいと
思える**人柄**か

入社や業務への
熱意があるか

入社後活躍できる
ポテンシャルがあるか



面接のコツ

面接独自のマナーを守る

面接官と会話する
意識を持つ

好印象な
話し方を意識する

企業研究と自己分析を
徹底する

予想課題

- ① 教室に行きたくないという子どもの指導
- ② あなたの教科がきらいな子どもの指導
- ③ 保護者が下校で傘をささずに帰ってきたあなたの指導に問題があるとクレームがありました。どう説明しますか。

学級経営のコツ

(1) 学校の雰囲気づくり

学校風土の形成は、学校経営において重要である。伸び伸びとした明るさだけでなく、**公平感が伴い、ルールが存在する。**

(2) 帰属意識の維持

居場所づくりは、自尊心育成において重要である。**管理職が見守っているという点がポイントである。**

(3) 心のエネルギーの充足

認められることで心の充足があり、それが他者承認につながる。集団に与える影響は大きい。その後の行動にもつながってくる。

(4) 心的な理解へのかかわり

どのような行動でも理由がある。それを前提に指導したい。また、達成感を得られるような配慮も求めたい。

(5) 意欲の育成

分からない時はいつでも質問できる雰囲気や相互にやりとりできるコミュニケーション的な環境をつくる。特に、「ほめ言葉」「認め言葉」の工夫も重要である。

(6) つまずきへの教育相談的対応

つまずきの原因を認識し、その対応を工夫する。また、スキルの未獲得が推測される場合は、前提となる原理や方法などの再検証を図る。

子どもたちの

伝言

学校現場を
みつめて 123

徳島市の眉峰ギャラリー展
生光学園小5年 久米希典

これからの教育は、社会と教室をつなぐダイナミックな学びが進んでいくでしょう。そのために教室を離れて社会体験を行うことは重要なのですが、危険もあるし、時間もとれません。そうした中、新聞を活用する教育は、ピッタリの学びだといえるのです。

先日、鳴門教育大学で「日本NIE学会第16回鳴門大会」が開催され、講演やシンポジウムなどで、数多くの新聞活用の実践が発表されました。特に、大学、新聞社、学校現場の三者の立場から

話し合う記念トークは、参加者から好評を博しました。

そこでは、元校長から、小学校で認知症のお年寄りを招いた授業についての発表がありました。授業の様子が、毎日新聞の1面に掲載されたことで、子どもたちがこの活動に社会的な価値があったことに気づいたという事例を紹介されました。まさに新聞紙面を通して、教室と社会がつなが

社会と教室





室がつつながる

った瞬間です。
また、地方新聞社の編集局長からは、新聞記事は5W1Hを基本として、正確に分かりやすく書いているが、これに加えて、1W1worth（価値）を意識すること、を若手記者に指導していると話されました。このように、さまざまな事実価値づけを行うことは、これからの社会において重要な要素になるのではないかと考えるのです。ある事実において、それにどんな価値があるのかを気づくことが大切だと思ふのです。

経済協力開発機構（O

ECD）は、2030年を見据えた教育を提起しています。そこでは、「新たな価値を創造する力」「対立やシレンマを克服する力」「責任ある行動をとる力」の三つの能力の育成を挙げています。こうした力を育むためにも、新聞を活用することは有効な手段だといえるでしょう。

新聞は、社会と人々を「活字」を通してつないでいくという使命と役割があります。だからこそ、子ども時代には、新聞に触れてほしいのです。それは単なる事実の羅列だけではなく、価値を見いだすことができる教材だといえるからです。

（鳴門教育大学大学院教授 阪根健二さん）